

都大路：文苑

著者	岩永，憐一
雑誌名	龍南會雜誌
巻	1 4 8
ページ	2 7 - 2 7
発行年	1912-12-20
URL	http://hdl.handle.net/2298/6419

若き日

日

生

「しんさんと見惚れるやうな」小姓振松蔦が演る槍の權三
武夫原に月見草咲く六月の晴れたる空を阿蘇の霾降る
加藤社の櫻の老木紅葉して十月の日のうらゝかに照る

都大路

ゆめみるひと

智恩院のつめたき朝の石段にそこはかとなき悲しみもちる
月夜よし舞子の濱の水際の白くふるふを友とながむる
わが胸は夕日の光あかあかと空にうつるをたねす夢みる

抛げやり心

長

生

物を追ひ只ひたすらに物を追ひきたなき心ふと燃ゆる折
器みな打ち碎きては破片みな拾ひ集めて楽しむ男